

広報見聞録

瀬棚保育所で「もちつき会」が開催されました
つきたての柔らかいおもちは美味し～

Koho - kenbunroku



12月20日（金）、瀬棚保育所において毎年恒例のもちつき会が行われました。

この日は、お父さんお母さんたちもお手伝いに駆け付け、子どもたちをサポートしていました。

まずは、お父さんたちが蒸しあがったもち米を潰し、ある程度つきあげたおもちを、子ども達がついていきました。なかには、もちつきの音にビックリして泣いてしまう子もいましたが、子どもたちはお父さんお母さんや先生たちに見守られながら、ペタンペタン上手に杵を使ってもちつきをしました。

つきあがったおもちはお母さんたちが丸め、砂糖醤油やきなこもちなどにして味わいました。子どもたちは、つきたてのやわらかいおもちをおかわりして食べていました。

編集後記

●役場の忘年会は新人が余興を披露するのが恒例で人生初の余興にチャレンジ。しゃべり下手なのに手品を選んだ自分は、事前に課内で披露し大惨事に。考えの甘さに後悔している。と、先輩達から手品に付け足して「コジマつながりで小島よしおの『そんなんの関係ねえ』はどうだ」とアドバースが。人前で体を張った芸を披露するのも人生初で不安でしたが、3日間の練習と、苦しいトークを隣の席の清水先輩がサポートしてくれてなんとか成功。いつも写真を撮る側の自分がステージに立つのは何とも言えない緊張がありました。芸能発表会など毎年芸を披露する出演者の方々はすごいなあ。やっぱり自分は撮る側がいいです。（同僚）

●人生初の余興に挑んだ尾島君「中途半端は絶対ダメだぞ」と送り出したこっちの方が緊張。とりあえず無事やりきってくれて安心しました。頑張ったので、いつもより編集後記のスペースをあげます。（笑。保育所の餅つきでは、子どもたちがつく前に、お父さんたちがある程度つきあげます。保護者として何度かお手伝いしたことがあるので、その大変さは覚えてます。何回もその作業をするので、後半は腕も足もガクガクでした。今回はそんな貧弱でなく手慣れたお父さんたちがいたので、見事な餅つきでした。昔は各家庭でこうして何度も正月用の餅つきをしたと聞きます。実家に石臼もあるのが大事なの日本の風習を、と言えればカッコいいですが、言いません。だって足腰、いや身体の衰えが……。ああ、新人時代、海パン一丁で踊ってたあの頃の身体に戻りたい。（尾島）

